

昭和45年度 学 生 募 集 要 項 金沢大学

1. 募 集 人 員

学 部	学 科 ・ 課 程	募 集 定 員	
			計
法文学部	法 学 科	100	290
	経 済 学 科	100	
	哲学科・史学科・文学科	90	
教育学部	初 等 教 育 科	100	235
	中 等 教 育 科	(国語・社会・数学・理科・英語……各約6) (音楽・美術・技術・家庭……各約4) (保健・職業……各約2)	
	養護教育科	初等部 15 中等部 5	
	養護教育科	初等部 10 中等部 5	
	体 育 科	20	
	特 別 体 育 科	30	
理学部	数 学 科	30	130
	物 理 学 科	25	
	化 学 科	35	
	生 物 学 科	20	
	地 学 科	20	
医学部	医 学 科	100	100
薬学部	薬 学 科	40	80
	製 薬 化 学 科	40	
工学部	土 木 工 学 科	60	405
	機械工学系学科	100	
	工業化学科	50	
	化学工学科	50	
	電気工学科	50	
	精密工学科	40	
	電子工学科	40	
	工業教員養成課程	15	
合 計			1,240

注：工学部の工業教員養成課程については、3の(3)「学部学科等の選定方法」の項を参照のこと。

2. 受験資格

- (1) 高等学校を卒業した者および昭和45年3月卒業見込みの者。
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）および昭和45年3月修了見込みの者。
- (3) 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。

3. 出願手続

(1) 願書受付期間

期 間 昭和45年2月1日（日）～昭和45年2月10日（火）
 受付時間 午前9時から午後5時まで、ただし、土曜日は正午までとする。2月1日の日曜日は受付けるが、2月8日（日）は受付けない。
 郵送による場合も所定期日までに必着を要する。

(2) 願書提出先

つぎの各志願学部学生係あて提出すること。

法 文 学 部	金沢市丸の内1	医 学 部	金沢市宝町13
教 育 学 部	金沢市丸の内1	薬 学 部	金沢市宝町13
理 学 部	金沢市丸の内1	工 学 部	金沢市小立野2丁目

各学部とも郵便番号 920

(3) 学部学科等の選定方法

(ア) 法文学部について

哲学科、史学科および文学科については、学科別に募集せず一括して入学者を選抜する。
 哲学科、史学科および文学科に出願する者は、名票の志望学科欄に「哲・史・文学科」と記入すること。入学者は専門課程進学の際あらためて、3学科内の専攻課程から志望課程を選び分属するが、この際定員を超過するときは、選考のうえ分属を決定する。

なお、哲学科、史学科および文学科の専攻課程ならびに学生定員は次のとおりである。

哲 学 科	哲学専攻・心理学専攻・社会学専攻	20
史 学 科	国史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻・地理学専攻	20
文 学 科	国語国文学専攻・英米文学専攻・ドイツ文学専攻・言語学専攻	50

(イ) 教育学部について

- ① 初等教育科の志願者は、従護教育科初等部または^{ろう}聾教育科初等部を第2志望として選ぶことができる。
- ② 中等教育科の志願者は、志望学科欄に中等教育科の1志望教科のみ記載する。ただし、数学・美術・保健・技術・家庭を志望する者は、従護教育科中等部の同一教科を、数学・英語・美術・技術・家庭を志望する者は、^{ろう}聾教育科中等部の同一教科を第2志望として選ぶことができる。
- ③ 体育科および特別体育科の志願者は、互に他を第2志望として選ぶことができる。

(ウ) 工学部について

- ① 機械工学科と機械工学第二学科の学生は、機械工学系の学生として同等に取り扱うから、この学科を志願する者は、志望学科の欄には、「機械工学系学科」と記入すること。
- ② 工学部の志願者（精密工学科・電子工学科の志願者を除く）は、工業教員養成課程の志望の有無を名票裏面の記入欄に必ず表示すること。

工業教員養成課程を修める者は、

土 木 工 学 科	約3名	機 械 工 学 系 学 科	約4名
工 業 化 学 科	約3名	化 学 工 学 科	約2名
電 気 工 学 科	約3名	計	約15名

であって、各学科とも、それぞれ所定の課程を履修することは他の学生と同じであるが、日本国憲法2単位、職業指導4単位を必ず履修しなければならない。これにより高等学校教諭二級普通免許状（工業）を与えられるが、卒業後教員になる義務はなく、他の卒業

生と同じである。

(4) 提出書類および要領

入学志願者は、次の書類を一括して出身学校を經由し、所定の期日までに到着するよう提出しなければならない。

ただし、事情やむを得ない場合は、出願書類を直接志願者が提出し、出身学校へ関係書類の提出を依頼するようにしてもさしつかえない。

(ア) 志願者名票 本学所定の用紙による。

(イ) 写真 2 葉 正面向半身脱帽で出願前 3 か月以内に撮影したものを、名票の所定の箇所にのり付けする。

(ウ) 入学検定料 金 3,000 円（現金のこと）。

(エ) 調査書 所定の様式により出身学校長が作成したもの（5 参照）。

(オ) 健康診断書 本学交付の用紙により国公立の病院、日本赤十字病院、保健所または結核予防会付属診療所の医師の診断によるもの。

(カ) 封筒（定形）1 枚 受験票等送付のため、自己の住所氏名、郵便番号を明記し、20 円切手をはったもの。

（注）1. 出願当時大学に在籍する者は、当該大学の受験許可書を添付すること。

2. 外国人の志願者は、出願書類と共に外国人登録証明書の写を提出すること。

4. 入学者選抜の方法

入学者の選抜は、学力検査、健康診断および出身学校から提出された調査書による。

(1) 学 力 検 査

学力検査は、高等学校卒業の学力を標準として、次の表に示す 5 教科について行なう。ただし、教育学部体育科、特別体育科については、体育実技を加える。

選択科目については、出願の際に次表の区分により受験志望の科目をあらかじめ志願者名票により届け出なければならない。届け出た科目以外では受験できない。

学 力 検 査 実 施 教 科 ・ 科 目

学部・学科名 出題科目 教科・科目名		法文学部		教育学部				理学部				医学部 薬学部 工学部	
				初等教育科 中等教育科 養護教育科		体育科 特別体育科		数学科 化学科 生物科 地学科		物理学科			
				出題 科目数	受験 科目数	出題 科目数	受験 科目数	出題 科目数	受験 科目数	出題 科目数	受験 科目数	出題 科目数	受験 科目数
国語	現代国語	◎	2	◎	2	◎	2	◎	2	◎	2	◎	2
	古典乙Ⅰ	◎		◎		◎		◎		◎		◎	
社会	倫理・社会	○	2	○	2または1	○	1	○	1	○	1	○	1
	政治・経済	○		○		○		○		○			
	日本史	○		○		○		○		○			
	世界史B	○		○		○		○		○			
	地理B	○		○		○		○		○			
数学	数学Ⅰ	◎	2	◎	2	◎	2	◎	3	◎	3	◎	3
	数学ⅡB	◎		◎		◎		◎		◎			
	数学Ⅲ							◎		◎		◎	
理科	物理B	○	1	○	1または2	○	1	○	2	◎	2	◎	2
	化学B	○		○		○		◎		◎			
	生物	○		○		○							
	地学	○		○		○							
外国語	英語B	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1
	ドイツ語	○		○		○		○		○			
保健体育	実技					◎	1						
合 計		14	8	14	8	15	8	15	9	13	9	13	9

（備 考）

(ア) ◎は必須科目、○は選択科目をあらわす。

(イ) 「倫理・社会、政治・経済」を合わせて 1 科目として取扱う。

- (ウ) 教育学部の受験者（体育科および特別体育科の志願者を除く）は、「社会2科目・理科1科目」または「社会1科目・理科2科目」のいずれかを選ぶものとする。
- (エ) 体育科、特別体育科の受験者は、「社会1科目・理科1科目および保健体育（体育実技）1科目」を受けなければならない。なお、体育実技については、つぎのとおりである。

体力検査	
技能検査	器械運動、陸上競技、格技（柔道・剣道）、球技（バスケットボール・バレーボール・サッカー・ラグビー・テニス）の中から実施する。

- (オ) 教育学部の中等教育科の音楽、美術の志願者および養護教育科中等部と^る養教育科中等部の美術の志願者（第2志望とするものを含む）は、それぞれつぎの「志望教科の実技テスト」を受けなければならない。
- ① 音楽の実技テストは、歌唱（ヴェルナーのコールユーブンゲン巻1の8度までの中から1曲を当日指定）および器楽（ピアノ・管楽・弦楽の3つのうち、いずれか1つを選び自由曲1曲）を課する。
- ② 美術の実技テストは、石膏デッサン（鉛筆による）を課する。
- (カ) 理学部化学科の受験者は、物理B、化学Bを選択することが望ましい。

(2) 学力検査日程

日 時	午 前	午 後
3月3日（火）	国 語 9.30～11.30	社 会 1科目 1.00～2.30 2科目 1.00～4.00
3月4日（水）	外 国 語 9.30～11.30	理 科 1科目 1.00～2.30 2科目 1.00～4.00
3月5日（木）	数 学 9.30～12.30	体 育 実 技 1.30から

注 なお、音楽、美術の実技テストは、3月5日（木）午後1時30分から行なう。

(3) 学力検査場

志 願 学 部	試 験 場	所 在 地
法 文 学 部	法 文 学 部・教 養 部	金沢市丸の内1
教 育 学 部	教 育 学 部	金沢市丸の内1
理 学 部	理 学 部・教 養 部	金沢市丸の内1
医 学 部	医 学 部	金沢市宝町13
薬 学 部	教 育 学 部 付 属 高 校	金沢市平和町1丁目
工 学 部	工 学 部	金沢市小立野2丁目

(4) 健康診断

- (ア) 提出された健康診断書によって審査し、必要と認める者については本学で健康診断を行なう。これに関する事項および診断を要する者の受験番号は、3月5日学力検査終了時までに試験場に掲示する。該当者が診断を受けないときは、入学資格を失う。なお、再診を要する者の健康診断は、3月5日（木）午後1時30分から行なう。
- (イ) 合格者については、入学後あらためて本学において必要な健康診断を行なう。診断の結果就学に支障があると認めた場合および理由なく診断を受けないときは、休学または退学させることがある。

身体的疾患および色覚異常について

本学への志願者は、自己の身体条件を考えて次の各項にわたり熟読のうえあらかじめ専門的検査を受けておくことが望ましい。

- 次の疾患を有する者は、入学を許可しない。
 - (ア) 全治の見込みがないか、または再発のおそれの多い精神機能障害。
 - (イ) 急治の見込みのない疾患（例えば、結核性疾患、心臓病、腎臓病等）。
- 視力障害のある者（基準：両眼をもってしても矯正視力が0.6に達しないもの）は、入学を許可しない。
- 学部、学科によっては、学修上支障があると認められる極度の運動機能障害・奇形、著しい言語障害・聴力障害のある者は入学を許可しない。
- 次の学部、学科および専攻教科では、強度の色覚異常者（アノマロスコープにより色盲または極度色弱と判定されるもの）は入学を許可しない。

教育学部 初等教育科、中等教育科（理科・美術・保健・技術・家庭・職業の専攻教科）、養護教育科の初等部および中等部（美術・保健・技術・家庭の専攻教科）、^る養教育科の初等部および中等部（美術・技術・家庭の専攻教科）、体育科、特別体育科

理学部 化学科、生物学科、地学科

医学部

薬学部

工学部

5. 調 査 書

- (1) 文部省所定の様式により出身学校長が作成したもの（氏名の上の欄外に志願学部を記入のこと）。志願者から直接出願書類を提出する場合は、学校長において厳封を要する。
- (2) 大学入学資格検定試験の合格者は、当該試験の成績証明書を提出して調査書にかえる。
- (3) 調査書の提出困難な学校（廃校、被災等）の出身者は、その旨を証明した書類をもって調査書にかえる。

6. 合 格 者 発 表

合格者の氏名は、3月20日までに本学教養部前に発表し、かつ郵便で本人あて通知する。

7. 注 意 事 項

- (1) 出願書類を郵送する場合は、封筒の表に「入学願書」と朱書きし、必ず書留郵便として志願学部へ提出すること。
- (2) 出願手続後は、いかなる事情があっても書類の変更、検定料の払いもどしはしない。
- (3) 出願手続に不正の事実があった場合は、入学許可を取り消す。
- (4) 郵便で願書を請求する場合は、自己の住所氏名、郵便番号を記載し、35円切手をはった封筒を同封して、「金沢市丸の内1、金沢大学学生部学生課教務係」（郵便番号920）あて申し込むこと。
- (5) 受験に関し本学に照会の際は、志願学部、受験番号を記入し、往復はがき、または返信用封筒（あて名、郵便番号を明記し、切手をはったもの）を同封のこと。電信電話による問い合わせには一切応じない。

金沢大学入学志願者名票 (昭和45年度)

受験番号	※ No.		志願学部	学 部
志望学科			(教育学部のみ) 第2志望	
(ふりがな) 氏 名	昭和 年 月 日生			性 別 男・女
(ふりがな) 通知を受ける場所	郵便番号	TEL		
本 籍 地				
入学資格	(所在府県名)	国 都 道 府 県 市 立	(学校名)	昭和 年 月 高等学校 卒業見込 卒業 検定合格

※の欄以外はすべて志願者各自が記入すること。

(きりとらないこと)

国 語	※	受験番号	※ No.
数 学	※	志願学部	学 部
社 会 理 科	※	志望学科	
外 語 国	※	調 査 書	※
体 育 実 技	※	健康状態	※
計	※	判 定	※

※の欄以外はすべて志願者各自が記入すること。

(きりとらないこと)

受験番号	※ No.	写 (のりしろ) 真
志願学部	学 部	1. 正面向半身脱帽、3か月以内に 単身撮影したもので受験票と同一 のもの。 2. 写真の裏面に志願学部、学科、 氏名を記入すること。 3. 本欄より大型のものは、本欄の 型に合せ上下糊付けのこと。
志望学科		
氏 名	昭和 年 月 日生	
昭和 年 月 立 卒業見込 高等学校 卒業 検定合格		(のりしろ)

※の欄以外はすべて志願者各自が記入すること。

(きりとらないこと)

昭和45年度 金沢大学受験票		写 真
受験番号	※ No.	1. 正面向半身脱帽、3か月以内に 単身撮影したもの。 2. 本欄より大型のものは、本欄の 型に合せ上下糊付けのこと。 3. 写真に出身学校長の割印を受け ること。
志願学部	学 部	
志望学科		
氏 名	昭和 年 月 日生	昭和 年 月 日撮影
昭和 年 月 立 高等学校 卒業見込 検定合格		

※の欄以外はすべて志願者各自が記入すること。

1. 父兄の調査欄

氏 名		
志願者との 続 柄		職 業
現 住 所		

2. 出願の際すでに高等学校を卒業しているものは卒業後の学歴(現に在学する大学、予備校または自宅学習など)および職歴を記入すること。

記入上の注意

1. 教育学部の志願者が第2志望を選ぶ場合は、下記の記載例によること。

(1) 初 等 教 育 科

志望学科	初 等 教 育 科	第2志望	養 護 教 育 科 初 等 部	または
志望学科	初 等 教 育 科	第2志望	聾 教 育 科 初 等 部	

(2) 中 等 教 育 科

志望学科	中等教育科数学	第2志望	養 護 教 育 科 中 等 部 数 学	
志望学科	中等教育科英語	第2志望	聾 教 育 科 中 等 部 英 語	など

2. 工学部の機械工学科または機械工学第二学科の志願者は志望学科欄には「機械工学系学科」と記入すること。

工学部の志願者(精密工学科、電子工学科を除く)は、工業教員養成課程志望の有無を必ず表示すること。

工業教員養成課程志望	有 ・ 無	○でかこむ
------------	-------	-------

選択受験科目の記入上の注意

1. 選択受験科目の記入にあたっては、募集要項の学力検査の項をよく読んで間違いのないようにすること。
2. 理学部物理学科、医学部、薬学部、工学部の志願者は、理科の科目は物理B、化学Bに限る。
3. 理学部化学科の志願者は、理科の科目は物理B、化学Bを選択することが望ましい。
4. 教育学部の志願者(体育科および特別体育科の志願者を除く)は、「社会2科目、理科1科目」または「社会1科目、理科2科目」のいずれかを選ぶものとする。
5. 倫理・社会・政治・経済を合せて1科目として取扱う。

試 験 時 間 割

月 日	教 科	時 間
3月3日(火)	国 語	午前 9.30 ~ 11.30
	社 会	1科目 午後 1.00 ~ 2.30 2科目 " 1.00 ~ 4.00
3月4日(水)	外 国 語	午前 9.30 ~ 11.30
	理 科	1科目 午後 1.00 ~ 2.30 2科目 " 1.00 ~ 4.00
3月5日(木)	数 学	午前 9.30 ~ 12.30
	体 育 実 技	午後 1.30から
3月5日(木)	実技テスト	午後 1.30から
	健康診断(要再診者)	午後 1.30から

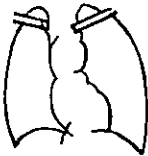
1. 本票は受験の際必ず携帯すること。
2. 本票は学力検査の際机上に置き監督員の照査に資すること。
3. 本票は健康診断の際各係員に示すこと。
4. 本票は入学手続に提出させるから試験後も必ず保存しておくこと。

診断医 殿

視力欄（裸眼視力・矯正視力とも）・色覚欄は必ずご記入願います。

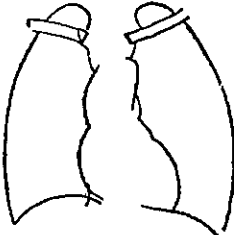
昭和45年度金沢大学入学志願者

健康診断書

※ 受験番号		No.		判 定		※ 検査不要・要再検・要精密	
ふりがな氏名	男・女	昭和 年 月 日生		志 望 学部学科	学部 学科		
現 住 所				出 身 高等学校	国立 公立 私立 高等学校		
診 断 事 項							
身長	cm		体重	kg		胸 囲	cm
ツベルクリン 反応最終判定	陽 性 ・ 疑陽性 ・ 陰 性			視力	右 裸眼視力 矯正視力 ()	左 裸眼視力 矯正視力 ()	
	昭和 年 月			色覚	正 常 ・ 色 弱 () 正 色 盲 () ・ 全 色 盲		
エックス線 検査	エ ッ ク ス 線			身 体 障 害	区 分		異 常 の 有 無
	直 接 (撮影年月)	間 接 (撮影番号) No.			運 動	有 ・ 無	
	年 月	年 月			視 覚	有 ・ 無	
			聴 覚		有 ・ 無		
	所 見		健康 ・ 要観察 ・ 要医療		言 語	有 ・ 無	
主 罹 患 時 の 年 令		肺 結 核 才 その他の結核疾患 () 才 気管支喘息 才 心 疾 患 才 腎 疾 患 才	リウマチ 小児まひ てんかん 神 經 症 精 神 病 そ の 他 () 才	主 現 在 症	(入学後の健康管理上注意すべき疾病の有無とその内容)		
そ 特 の 記 事 項							
<p>診断の結果上記のとおり相違ないことを証明する。</p> <p>昭和 年 月 日 住 所 (所在地)</p> <p>医 療 機 関 名</p> <p>医 師 の 氏 名</p>							
<p>注意 1. 検査医は裏面の証明記入上の注意事項を熟読されたい。</p> <p>2. この健康診断書は合、否、の判定の資料でありますから特に慎重に診断のうえ記入して下さい。</p>							

※印および裏面は記入しないこと。ただし裏面の志望学部学科氏名は記入すること。

志望学部・学科氏名は、必ず記入すること。

志望学部・学科	学部	学科	氏 名	
※ 要 再 診 断	判 定		診断医長印	
<p style="text-align: center;">記 入 上 の 注 意</p> <p>1. ※印欄は、大学が記入するものとする。</p> <p>2. ツベルクリン反応の欄は、陽性・疑陽性・陰性の別に該当事項を○で囲むこと。</p> <p>3. 色覚の欄は、正常・色弱・色盲・全色盲の別に該当事項を○で囲み（ ）内にその程度を記入のこと。</p> <p>4. エックス線検査の欄については、直接撮影の場合は撮影年月を、間接撮影の場合は撮影番号と撮影年月を記入すること。</p> <p>5. 身体障害の欄の運動については、小児まひによるものを含むものとし、また視覚については弱視等、聴覚については難聴、言語については、どもり等を含め異常の有無を○で囲み、その具体的内容を記入すること。</p> <p>6. 主な既往症の欄は、該当疾患を○で囲み、罹患時の年令を記入すること。 例示以外の疾患でとくに重要と認められるものについては、その他の箇所に疾患名および罹患時の年令を記入すること。</p> <p>7. その他特記事項の欄は、内部疾患、運動障害および精神障害で治療を要すると認められるもの、またはとくに注意を要すると認められるものを記入すること。</p> <p>8. 検査方法等は学校保健法施行規則の定めるところによること。</p> <p>9. 本診断書は、発行者において厳封すること。</p>				
※ 合 格 者 の 断	判 定		診断医長印	
科 名	所 見	印	X 線 番 号	X 線 所 見
色 覚			 No.	
そ の 他 疾 病 異 常				
備 考				

(この欄は記入しないでください)

入 学 案 内

1. 入学後の履修

本学の修業年限は4年（医学部は6年）で 最初の1年半（医学部は2年）は教養部において一般教養課程を履修し、その後それぞれの学部に進学し、専門教育課程を履修する。教養部にはつぎの科目がある。

I 一般教育科目

1. 人 文 科 学 哲学、倫理学、歴史学、文学、音楽、美術
2. 社 会 科 学 日本国憲法、法学、政治学、経済学、社会学、心理学、地理学、統計学
3. 自 然 科 学 数学、物理学、化学、生物学、地学

II 外国語科目 英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、ラテン語

III 保健体育科目

IV 基礎教育科目

V 専門教育科目

学部、学科によって開設されることがある。

2 教育職員免許状

(1) 教 育 学 部

ア 初 等 教 育 科……小学校教員養成課程

小学校教諭一級普通免許状のほかに、1教科の中学校教諭二級普通免許状または幼稚園教諭一級普通免許状を取得することができる。

イ 中 等 教 育 科……各教科の中学校および高等学校教員養成課程

専攻する1教科の中学校教諭一級普通免許状および高等学校教諭二級普通免許状のほかに希望により他の1教科を選んで中学校教諭二級普通免許状を取得することができる。

ウ 養 護 教 育 科……養護学校（精神薄弱児等の教育をおこなう学校）教員養成課程

初等部は、養護学校教諭一級普通免許状および小学校教諭一級普通免許状を取得することができる。

中等部は、養護学校教諭一級普通免許状および1教科の中学校教諭一級普通免許状と高等学校教諭二級普通免許状を取得することができる。

エ 聾 教育科……聾学校教員養成課程

初等部は、聾学校教諭一級普通免許状および小学校教諭一級普通免許状を取得することができる。

中等部は、聾学校教諭一級普通免許状および1教科の中学校教諭一級普通免許状と高等学校教諭二級普通免許状を取得することができる。

オ 体育科……保健体育の高等学校教員養成課程

高等学校教諭二級普通免許状および中学校教諭一級普通免許状（保健体育）を取得することができる。

カ 特別体育科……保健体育の中学校および高等学校教員養成課程

中学校教諭一級普通免許状および高等学校教諭二級普通免許状（保健体育）のほかに特定の教科の中学校教諭二級普通免許状を取得することができる。

(2) 法文学部・理学部・薬学部

学部所定の課程のほか、教職科目を履修した者は、所定の教科につき中学校教諭一級普通免許状および高等学校教諭二級普通免許状を取得することができる。

ただし、薬学部については学科課程の関係上教職科目の履修は困難である。

(3) 工学部

工業教員養成課程以外の者でも入学後、学部長の承認をうけて、日本国憲法2単位、職業指導4単位を履修した者は、高等学校教諭二級普通免許状（工業）を取得することができる。

3. 学生生活

(1) 授業料

授業料は現在年額12,000円であり、2期にわけて徴収する。

なお、経済的事情によって授業料を納付することが困難で、かつ学業成績が優秀な者には、願い出により選考のうえ、その期の授業料の全額または半額を免除する制度がある。（ただし、1年生の第1期分および日本育英会特別貸与奨学生の授業料は免除されない。）

また事情によっては、願い出によりその期の終りまで徴収を猶予し、または月割分納を許可することもあり、さらに風水害などの特別の理由で授業料納入が困難な場合にも授業料が免除されることがある。

(2) 入学当初に要する経費

入学の際の費用としては、入学料4,000円、授業料1期分6,000円、学生健康保険組合費4か年分4,000円（医学部は6か年分6,000円）を納入しなければならない。

教科書代は、当初5,000円～7,000円程度必要であるが、理科系学部では実習用器材等の購入のため更に1,000円～2,000円が必要である。

(3) 奨学制度

日本育英会は、学業成績が優秀で、経済的理由により学資支弁の困難な学生に対し、選考のうえつぎのとおり奨学金を貸与する。

○一般貸与奨学生	月額	3,000円
○特別貸与奨学生（自宅通学）	〃	5,000円
（自宅外通学）	〃	8,000円

本学では、全学生の約40%（一般貸与奨学生13%、特別貸与奨学生27%）の学生が日本育英会の奨学金の貸与を受けている。

なお、日本育英会のほか、地方公共団体、会社、財団などの奨学制度もある。

(4) 学生寮

本学には、北浜寮、泉学寮（以上男子寮）、白梅寮（女子寮）の三寮があり、いずれも鉄筋コンクリート4階建である。居室は一室2人収容で、各室とも机、椅子、ベッド、本棚等が設備されており、各寮とも食堂、浴室、娯楽室、図書室等が完備している。収容人員は男子590人女子164人、計754人であるが、新入生に対する募集は、男子約80人、女子約30人についておこなわれる予定である。

1か月の寮生活費は、寄宿料300円、食費約3,300円（2食）、寮運営費800～1,000円で、大体4,500円ぐらいである。

(5) 下宿

本学では、下宿、貸間のあっ旋をする。下宿料および間代は、場所、部屋の状況によって異

なるが、大体つぎのとおりである。

畳 数	下 宿 料(2食付)	賃 間 料	備 考
4 畳～4.5 畳	10,000～11,000 ^円	4,000～4,500 ^円	下宿は電気料別 貸間は電気、ガス、 水道料別
5.5 畳～6 畳	11,000～12,000	4,500～5,000	
8 畳	12,000～13,000	5,500～6,000	

(6) アルバイト

学資の補助のためやむを得ずアルバイトを必要とする学生のために、本学ではアルバイトのあっ旋を行なっている。

1日あたりの平均賃金は、事務900円～1,000円、軽労働1,000円～1,200円、重労働1,500円～2,000円、家庭教師は週2回で月4,500円～5,500円である。

(7) 学生健康保険組合

この組合は、学生が在学中不幸にして病気にかかった場合、その医療費を学生相互に救済することを目的とするものである。組合費は年額1,000円とし、入学手続きの際に全額4,000円(医学部は6,000円)を納入する。

なお、組合員が傷害、疾病に要した医療費に対し、その金額の40%以内を組合費から給付する。ただし、年間を通じて1人3万円を限度とする。

宿 泊 あ っ 旋 に つ い て

遠隔地の受験者に対しては例年宿舍をあっ旋しているが、申込み方法等については受験票等送付の際に連絡する。